

島根県消防学校だより vol.8

初任総合教育第54期『卒業式』

11月18日（火）初任総合教育第54期生33名の卒業式を挙行了しました。今期からは、従来の「初任科」と「救急科」を一つにした「初任総合教育」となった関係で、期間も6ヶ月から8ヶ月に延び、春～夏～秋の3シーズンに渡っての教育となりました。卒業式は枯れ葉舞う晩秋。いつになく誰ももの涙腺が弱かったようです。



～卒業展示～



前日からの雨もなんとか降りやみ、多くの消防関係者や家族が見守る中、大津総代の訓練開始報告を合図に始まりました。始めの訓練礼式は、通常点検と小隊の停止間の動作を行い分列行進で締めくくりました。キビキビとした節度ある動きに、見学者からは盛大な拍手いただき、ますますの滑り出しです。



次は「小型ポンプ操法」です。7月の校内予選会で優秀な成績だった2班が披露。スピードは県大会とは程遠いレベルでしたが緊張感は全国大会レベルでした。

次に今期から救急科を取り込んだことを踏まえて「救急演習」を行いました。想定は「電柱に激突した車両の単一交通事故。負傷者2名」。学生の中に6名の救急救命士がいますので、彼らを中心に演習を組み立てました。今まで卒業展示で家族等に披露する機会がありませんでしたので、現実的な救急処置や活動は、新鮮な感動と安心感を抱いて頂けたことと思います。首にかけた聴診器が、初任科生とは思えないくらい決っていました。



次の救助訓練は主塔と副塔をフルに使い「登る」・「渡る」・「降りる」の8種類の基本手技を披露しました。スピードは望めませんが現実性を重視。ぎこちないところなどもありましたが、全員が無事に最後までやり遂げました。

最後の消防演習は「高層ビル火災想定訓練」を行いました。防火衣装着訓練からスタートし、途中に応急はしご救出、検索救出、山林への延焼を盛り込み、消防活動の基本である安全・確実・迅速な活動を展開しながら、最後は11線一斉放水で演習の幕を閉じました。ちょっと欲張った内容でしたが8ヶ月間で身に付けた気力・体力・精神力の全てを出し切り終えることが出来ました。

～屋内式典～

屋内訓練場で行われた式典では、渡部校長から一人ひとりに卒業証書が手渡され「外には謙虚な気持ちを持ち、内には自信と誇りを持って」「自分磨きの努力を惜しむな」「信頼されるプロの消防人になれ」の三点について式辞がありました。

卒業生を代表して総代 大津功一（松江消防）が「常に努力を重ね、向上し続けたい」と決意表明しました。優秀賞は、安藤大輔（大田消防）、松田 遠（出雲消防）、加藤 誠（松江消防）の3名が受賞しました。



第4回 島根メディカルラリー

10月19日(日)に「第4回 島根メディカルラリー」(同 実行委員会主催)が消防学校で開催されました。これは、医師、看護師、救急救命士、救急隊員の4人が一つのチームになり、災害現場での救急活動技術を競うもので、医療機関と消防との連携を強め、実災害の迅速な救急救助活動につなげる狙いで実施されます。

車と自転車の衝突事故など5想定現場に、県内9消防本部の救急隊員、医師、看護師、初任科生など40名(10チーム)が参加して、現場力を磨きました。最後に全チームが合同で「山間部で2車両編成の電車が脱線事故。負傷者28人」の想定で救急対応訓練を実施。トリアージ、応急処置、病院手配、情報収集、出火防止、現場指揮、広報など、盛り沢山の内容が詰め込まれた、とても有意義なラリーでした。



お知らせ

今年度、実践的な環境下での総合的な訓練を目的に『消防活動訓練棟』を建設します。場所は校内の「耐煙消火訓練場」南側で、建物規模はRC造2階建て、延べ面積 158.74㎡。地下に貯水ピット、建物横にガレキ施設を併設します。

11月下旬から本格的な工事が始まり、大型車両等が入り込みますので、来校される方は気をつけてください。完成は来年2月末です。また、3月13日(金)10時~県や消防関係者を招待し、竣工式を行う予定です。その際には「訓練施設を使って初級幹部科の消防訓練」「松江市南消防署高度救助隊による救助訓練」「消防団訓練用車両CD-Iの展示」などを行います。



編集後記 (事務局より)

初任科生たちが一人も脱落者なく学舎を巣立っていきました。彼らの消防職員としての職業人生はこれからです。明治維新の志士たちを育てた幕末の儒学者 佐藤一斎の随想録『言志四録』に「立志の功は、恥を知るを以て要と為す(志を立てて成功するには、恥をかくことが肝心である)」とあります。失敗は青春の特権です。若いときは、何度失敗してもやり直しがきくし、それは成功の糧となります。消防職員を目指したからには、若さを武器に失敗を恐れず、志を遂げるよう精一杯頑張ってください。

島根県消防学校

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-157

E-mail: syobogako@pref.shimane.lg.jp

Tel: 0852-22-0166